学校教育だより

まなびやまと

No. ３５
令和４（２０２２）年３月
大和市教育委員会

市立小中学校で活用が進む1人1台端末
～広がる活用の場面～

令和2年度、文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づき、大和市は市立小中学校に1人1台端末（以下、Chromebook）を整備しました。活用が始まってから約1年が経ち、各学校では、Chromebookを効果的に活用した学びが進んでいます。

〈撮影した動画で研究　大野原小学校〉

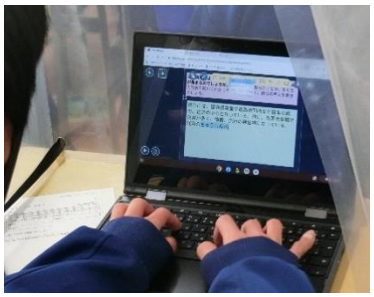
10月21日（木）、6年2組の体育科「マット運動」の学習では、児童がChromebookを活用して、技の改善をしていました。

この日は、動画撮影の機能を活用しました。自分がマット運動をしている様子を友だちに撮影してもらいます。撮影された動画は、止めたり、繰り返したり、スロー再生したりなど、様々な見方をすることができます。動画の撮影ができるようになったことで、友だちからアドバイスを受けた部分を正確に理解したり、見えない手足の動きを自分で確認したりすることができるようになります。ファイル共有アプリで教員に送信すれば、教員からの評価やアドバイスを得ることもできます。新たなツールを巧みに利用して、より深く学んでいます。

〈学習支援アプリの活用　引地台中学校〉

1月31日（月）、2年3組の社会科「関東地方―さまざまな地域と結びつく人々の暮らし―」の学習では、学習支援アプリ（以下、ロイロノート）を活用して、意見の公開と共有をしました。

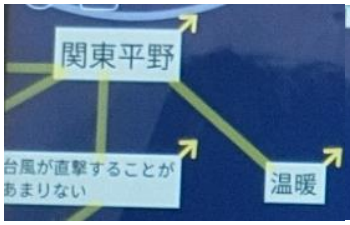
生徒は、提示された資料から「東京に人々が集まる理由」を読み取り、ロイロノートのカードに記入します。記入したカードは教員に提出し、クラス全員で共有します。共有された友だちのカードを見ることで、様々な視点を得て、その後最終的に自分の意見をまとめていきます。また、学びの要点を毎時間各自でウェビングマップ（※）に整理していくことで、単元末には自分だけの思考マップが整理されています。



学習後、生徒からは、「黒板の内容を手元で拡大できるので見易い」「タイマーが表示されるので、活動時間を意識して取り組める」「いろいろな友だちの意見を参考にしながら自分の考えをまとめることができる」などの声が聞かれました。

新しい学びのスタイルに慣れ、机の上にChromebookのある風景も当たり前になってきました。導入から1年が経とうとしている今、授業中だけでなく、家庭学習にも活用が進んでいます。

（※）ウェビングマップ
思い付いたアイディアを次々と記載していき、そのアイディアをつなげていく思考整理法で、「分類」「関連付け」などに有効。



わたしたちの大和市を知ろう
～大木市長にオンラインインタビュー～
大和市立渋谷小学校

社会科で、1学期には上下水道やごみ処理場、2学期には消防署や警察署などについて学習した4年生の児童は、安全安心な暮らしを守るためにたくさんの人が協力して頑張っていることを知って驚き、大和市のことをもっと知りたいと思ったそうです。

そこで、12月1日(水)、4年2組の児童は、Chromebookに導入されているビデオ会議ツール「Google Meet」を活用し、大木哲大和市長にオンラインインタビューをしました。

11時半頃、教室の大型モニターに大木市長が登場しました。大木市長の明るい声と笑顔で、少し緊張していた児童の表情もほぐれ、司会の案内で代表の児童から順番に質問が始まりました。「市長のお仕事にはどのようなものがあるのですか」「昨年は図書カードをもらいましたが、大和市はどうして読書に力を入れているのですか」など、素朴な疑問や体験談をもとにした質問の内容は、事前にみんなで考え、選んだものです。大木市長は、「読書は想像力が養われます。お家でもたくさんの本を読んでください」「大和市は自然災害に強いまちですが、大地震の時、そして火事が起きた時、どのような行動をとったらよいか考えてほしいです」など、大和市の施策が児童にも伝わるよう、ジェスチャーを交えながら丁寧に説明をしていました。

終わりの挨拶では、児童から全力の「バイバイ」が飛び、大木市長も全力で応える形で、オンラインインタビューが終了しました。

インタビュー後、児童からは「市長さんが自分たちの質問に答えてくれて嬉しかった」「優しくて話しやすかった」「これまで関わりが無かったけど、新鮮で楽しかった」「大和市のことがもっと知れた」などの感想が聞かれました。

学校は、教室にいながら外とのつながりを持てるツールを効果的に活用して、コロナ禍の中でも児童が様々な経験を得られるよう、工夫しながら学習活動に取り組んでいます。

障がい者福祉を学ぶ
～車いすバスケット教室を通して～
大和市立大和東小学校

4年生の児童は、総合的な学習の時間に、バリアフリーや盲導犬などの社会福祉の学習を通して、「みんながくらしやすい社会」について考えてきました。その一環として、11月19日(金)、体育館で3名の講師を招いて、認定NPO法人パラキャンの主催する車いすバスケット教室に参加しました。

講師による競技実演の後、児童は一般的な車いすと競技用車いすの違いを問われ、「肘置きが無い」「タイヤが多い」など、様々な気づきを答えていました。

じっくり見て学んだ後は、全員が順番に競技用車いすに試乗しました。「思ったより難しそう」と言っていた児童も、お互いに「片方の車輪を押さえるんだよ」などとアドバイスし合いながら、回を重ねるうちにスムーズな乗車になっていきました。

次は、いよいよ車いすバスケットです。やってみると、車いすを移動させながらボールを扱うことがどれだけ難しいのかを感じると同時に、みんなで一心にボールを追いかけるスポーツとしての楽しさを感じていました。周りで見ていた児童も、「追いつけ！シュート！ナイス！」などの声援を送りました。

体験を終えると、児童は3名の講師のもとに分かれて集まり、車いす生活やパラスポーツについての質問を投げかけました。講師から「障がいの有無に関係なく、スポーツを楽しんでくれて良かった」「【障がい】を【できないこと】と捉えると、できないことがあるのはみんな一緒」「困っている人がいたら助けてあげる気持ちが大切」と話され、児童はうなずきながら聞いていました。

体験を通して、児童は、できないから諦めるのではなく、お互いに助け合って乗り越えることが大切で、それがくらしやすい社会につながっていくことを学びました。

おらが学校
～未来の担い手を育む～
大和市立桜丘小学校

桜丘小学校では、「グローバル化時代に活躍できる人材の育成」「子供が未来に夢をはぐくむ学校の創造」を学校運営方針として教育活動を行っています。その中から次の２点の活動について紹介します。

図画・工作にて使用（１年生）

１点目は、「ＩＣＴ機器の活用」についてです。Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋ活用の授業実践として１年生では、作品の感想や気づきを共有することに活用しました。手書き入力だけではなく、キーボードからの入力も行っています。

４年生では社会科の授業において、インターネットを用いた情報の収集、スライドの制作を行いました。その際に、使用する時の注意事項やきまりを考えました。また、各学年でこれからの社会における知識や技能、モラルの育成を行っています。

２点目は、「地域の特色をいかした活動」です。近隣で農業を行っている方々にご協力いただき、畑の見学や講義、種まきや収穫の体験を行っています。

３年生は大豆づくりに挑戦しました。大豆畑の一角を借り、種まきから収穫まで行いました。学習後も大豆を用いた給食が出ると、「大豆が使われている」とふりかえる姿が見られました。

大豆の収穫（３年生）

それ以外にもトウモロコシの皮むき体験、サツマイモやジャガイモの植え付けと収穫など、農作物に関わる活動を全学年で行っています。食料生産の大切さとその難しさについて、体験を通して学んでいます。

また、今年度から地域の方のご協力のもと、学校花壇の充実が図られています。季節に合わせて学校を彩られるよう、多くの種類の植物を植えました。子どもたちも環境委員会やボランティア委員を中心に整備に参加しています。

ハボタンの「桜丘小」

今回紹介した活動以外にも家庭や地域の方々のご協力を得ながら、桜丘小学校の児童は育っています。将来、大人となり、社会の一員として活躍するとともに、故郷である大和市、桜ケ丘を大切に思ってくれることを願い、今後も教育活動の充実を図っていきます。

歴史を風化させない
～戦争体験伝承者から学ぶ～
大和市立下福田中学校

６月30日（水）と７月１日（木）、下福田中学校３年生は、社会科の授業の一環として戦争体験伝承者から話を聞きました。

生徒は、社会科歴史分野の授業で「２度の世界大戦と日本」を学習しました。この学びを深め、さらにこれから学ぶ公民分野「個人の尊重と日本国憲法」につなげていくことを目標にしています。

伝承者は元市立中学校社会科教員の津田憲一さん。津田さんは第２次世界大戦下で戦地となり、集団自決の行われた沖縄県の座間味島を訪れ、戦跡から感じたことや戦争体験者から直接見聞きした「ありのまま」を「座間味旅日記」としてまとめ、子どもたちに伝えていく活動をしています。

講話では、津田さんから座間味島を訪れることになったきっかけや現地での体験について語られました。生徒にとって、集団自決という事実を知ることはできても、そこに至るまでの当事者の環境や心情、また生き残った人の今を知る機会はあまりありません。集団自決のために多くの島民が集まった忠魂碑や実際に逃げ込んだ防空壕、そしてオジイ・オバアの写真とともに語る津田さんから、「60年以上口を閉ざしていた。話すのはかさぶたを剥ぎ、えぐりだす作業だ」という脚色のない当事者の声を聞いている時も、生徒はまっすぐに前を向いて受けとめていました。

講話の最後、生徒は津田さんによる沖縄民謡の演奏に静かに聞き入り、学びを振り返りながら心を整理しているようでした。「戦争は怖くて悲しいから知りたくないと思っていたが、しっかりと学ぶ必要がある」「誰かが伝えていってくれるではなく、自分たちが学び、感じ、後世に伝えていくんだ」「今の日本は戦争を身近に感じないが、世界はどうだろうか。深く考える機会になった」などの感想があり、心で学ぶ特別な授業となりました。

「まなび　やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
〈お問い合わせ〉大和市教育委員会
指導室　260-5210
教育研究所　260-5213